



特定非営利活動法人日本防災士会 富山県支部

富山県防災士会会報

第5号

平成25年3月1日
発行 富山県防災士会
連絡先 090-8967-2617
(事務局：中川)

第5回北陸地区連絡会を開催

より緊密な連携を進めるために

連絡協議会・準備委員会の設立を承認

2月9日富山県広域消防防災センター研修室に於いて、NPO 法人日本防災士会・第5回北陸地区連絡会が開催された。



参加者は福井県6名、石川県4名、新潟県2名、富山県9名 合計21名とこれまでになく多い参加者だった。はじめに、各県活動内容が報告された。

- ・**福井県** 3年継続して防災マップコンテストの実施、小中高12校に対して学校防災アドバイザーの派遣、原子力災害対応について
- ・**石川県** 「いざ災害という時に間に合う防災士」を目指してスキルアップしている、石巻市牡鹿半島でのボランティア活動実施
- ・**新潟県** 防災士スキルアップのためのDIG研修、災害対応として長野県北部地震の被災住宅調査、新潟豪雨災害へのボランティア参加
- ・**富山県** 「災害時の行動指針」を作成中、防災士スキルアップ概要、県教育委員会から委嘱された学校防災アドバイザーを19のモデル校へ派遣

等々の話題を中心に報告があった。

続いて、北陸地区連絡会をより緊密な連携が進められるように北陸地区連絡協議会を設立するべく、「準備委員会の立ち上げ」を富山県から提案があり、承認された。

様々な意見が出され、今後、地域防災リーダーとしての活動、また北陸地区(ブロック)の活動が一層深まる期待がもてる連絡会だった。次回は石川県で開催される。

藤原防災士を講師に

避難所の運営方法を 図上訓練

会員相互研修



2月9日富山県広域消防防災センター研修室にて、藤原防災士(高岡市危機管理室勤務)を講師として会員相互研修をおこなった。テーマは避難所運営図上訓練(HUG)、参加者は24名。

避難所の開設・運営は行政(市町村)、施設管理者、避難者(住民)の三者が協力して行うものだが、大規模災害になればなるほど行政の到着が遅れ、避難所開設支援も遅れる。実際に2年前の東日本大震災では、行政機関とその職員にも被害が及び行政による避難所開設支援が困難な状況となった。このように、大規模かつ突発的な災害では、地域防災リーダーや住民が積極的に避難所開設・運営に参加することが求められている。

HUGは、某小学校の校舎配置図を使い、「避難所受付はどこに」、「情報掲示板はどこだろう」、「居住スペースは」、「立入禁止箇所は」、「仮設トイレは」等々を5グループに分かれてそれぞれ議論をしながら検討をおこなった。

地域防災リーダーとしての防災士は、避難所立上げや運営のサポートに加わることは当然であろう。そのためこうした図上訓練を通して、避難所の設置や運営手順、関係機関との連携等について内容を把握し、スキルアップを図っておくことは大きな意義がある。



グループに分かれて、図上演習

藤原防災士の巧みな話術に惹かれ、2時間があっという間に過ぎた。また、沢山の資料を準備して頂き、大変実りのある研修だった。

平成25年度通常総会開催のご案内

日時：3月23日(土) 午後3時00分～5時30分
場所：富山市 富山電気ビル(富山市桜橋通り3-1)
TEL 076-432-4111

内容：

第I部 特別講演(午後3時00分～4時00分)

演題 『立山砂防のオッカチャン応援隊』

講師 立山砂防女性部の会アドバイザー 吉友嘉久子氏

第II部 通常総会(午後4時00分～5時30分)

①24年度事業報告、決算報告等

②25年度事業計画、25年度予算、③その他

※懇親会(総会終了後 午後6時00分～を予定)

場所：せん 富山駅前(富山市新富町2丁目4-1)

TEL 076-405-1000

会費：5,000円

魚津市晴海ヶ丘自主防災会

救急手当法について学ぶ

出前講座
事例紹介

2月3日魚津市の晴海ヶ丘公民館にて、関防災士による防災講座が開催された。

主催は魚津市晴海ヶ丘自主防災会、参加者は31名。

関防災士は災害に備える一般的な内容に始まって、心肺蘇生法とAEDの使い方、担架の作り方と搬送上の注意、応急手当の方法などを大変分かりやすく解説された。

また、補助指導にあっていた荻生防災士や石黒防災士のユーモアを交えた解説が時々加わり、会場内は笑いが絶えず、参加者一同すっかり引き込まれていたようだった。

時の経つのも忘れて2時間たっぷり手足、からだを動かし、額に汗した実技体験だった。

町内会長さんや防災会の隊長さんは「富山県防災士会の皆さんの指導と協力があってからこそ、これまでにない防災講座でした」と感謝しておられた。また、魚津市役所の地域協働課の職員も参加され、「このような防災講座は大変新鮮で、勉強になった」と感想を述べておられた。



三角巾の使い方を習得中

公園運営と防災士 そして手話

投稿

防災士 野上忠一



私は一時避難場所に指定されている公園の受付窓口にいることもあり、スタッフはAEDの取扱い方、応急手当受講済の者で運営しており、「個」に対して非常時対応はできるだろうと考えていました。対象を「個人」から「集団」へと危機管理のレベルを上げないといけないと、あの震災で知りました。そんな時「防災士」のことを知り、直近の認定日に合わせ大阪で受講。講習内容に覚醒され、社長（愚息）も現場専任者にも取得させ、現在小社には3名の防災士がいます。当公園（正確には緩衝緑地）は南半分が農村散居地帯、北半分は団地化進行中住宅密集地域にあり、一時避難対象のほぼ半数の町内には自主防災組織ができており、残余の町内会も準備中と承知しています。全防災組織が立ち上がれば、連携して一時避難訓練を実施したいと考えています。

また、5年前前から関心があって手話を学んでいますが、あの震災で「聴覚障害者」は「他の障害者」の十倍の死者が出たと聞いています。「聴覚障害者」は外見上健常者と区別できない場合が圧倒的だから、人は声を発することで情報が伝わると思い込んでしまうからなのです。

当公園では手話のできる方二人に、非常時には応援してもらおう体制を整えています。が、いざとなればどうなるやら。やはり「訓練が重要」と考えています。

合格おめでとうございます！

荻生喜美恵防災士

日本赤十字社救急法指導員に認定される



荻生防災士は12月に1週間の養成講習会を受講された。「後期高齢者と呼ばれるにはまだ少し間があり、時間を無駄にしたくない、これまで培ってきた経験を生かしたい、赤十字指導員になればもっと多くの人と出会があり、より多く学び得る機会もあると思ったことがその動機」と語っておられた。

養成講習会では、養護教諭・看護師・山岳警備隊・機動隊・スポーツインストラクター等々の若い人に交じって最高齢合格だったとのこと。

こうした検定試験はレポート提出、学科試験、実技試験等多岐にわたったことだろう。

厳しい試験にも「遠い学生時代にタイムスリップし、夢と希望に燃え、胸が一杯だった若き日の教育実習を思い出し、素敵な養成講習会でした」と電話の向こうで語っておられた。

今回の1週間の養成講座受講と難関突破は、家族の協力がなければ成し遂げられないことであり、指導講師でもあった関防災士の熱い指導があったからこそである。

近々「救急法指導員」の認定証が本人に授与されることになっている。

荻生防災士は、災害ボランティアコーディネーターの資格も取得されている。

今後、益々のご活躍を祈念致します。（小杉）

■ 学校防災アドバイザーの活動が終了 ■

24年度富山県実践的防災教育総合支援事業・学校防災アドバイザーとして県教育委員会から委嘱された防災士13名のモデル校19校に対する支援活動の任務が2月末で終了した。主な支援内容は、避難訓練に際してのアドバイスと学校防災マニュアルの見直しに関するアドバイスで、各校から県に提出された報告書によれば、かなりの成果があったことが報告されており、この事業は25年度も継続されることが決まっている。

富山県防災士会の会員数（2月28日現在）

正会員：61人、準会員：2人、合計：63人
（平成25年4月1日付で新規入会予定の方が4人あり）

編集後記 もうすぐ春と思っていた2月末に寒気が襲来。新潟県支部からは「十日町では雪害対策本部ができた」との知らせがありました。また、青森県八甲田山近くの酸ヶ湯温泉では2月26日現在で積雪が566cmとこれまでの最高を更新したとのニュース。県内の今年は幸い積雪が少なく良かったが、日頃の備えは忘れずにいたい。（M）

